自己志向的完全主義と共感性の関連

— 適応の側面と不適応の側面に着目して —

○片岡春奈¹・大浦真一¹・松尾和弥^{1, 2}・福井義一³

(¹ 甲南大学大学院人文科学研究科・² 日本学術振興会・³ 甲南大学)

キーワード: 自己志向的完全主義, 共感性, 青年期

Relationship between self-oriented perfectionism and empathy: Focusing on adaptive and maladaptive aspects

Haruna KATAOKA¹, Shin-ichi OURA¹, Kazuya MATSUO^{1, 2} and Yoshikazu FUKUI³

(¹ Graduate School of Konan University, ² Research Fellow of the JSPS, ³ Konan University)

Key Words: Self-Oriented Perfectionism, empathy, adolescence

目 的

自己志向的完全主義 (Self-Oriented Perfectionism: 以下 SOP) は、精神的不健康と関連の深いパーソナリティ特性であると言われている (例, 齋藤他, 2009)。SOP が不適応的に働く理由の一つに、人間関係の問題を引き起こすことが挙げられる。例えば, SOP の一部の側面は、冷淡さと有意な正の相関を示すことが報告されている (Montano et al., 2016)。冷淡さは、相手に同情したり、親身になって物事を考えたりしない傾向である (橋本・小塩, 2016) ことから、円滑な対人関係の基盤である共感性が低下している可能性がある。一方で, SOP の一部の側面が認知的・情動的共感と正の相関を示すことも報告されており (Stoeber et al., 2013), 両者の関連については検討の余地が残る。

ところで, SOP と共感性にはそれぞれ適応の側面と不適応の側面があるとされている。SOP について, 福井・山下 (2012) は, SOP を測定する尺度の項目を再編し、抑うつとの関連から、「完全性と理想の追求」は適応の側面、「不完全性と失敗への恐れ」は不適応の側面であると概念化した。一方, 共感性について, 鈴木・木野 (2008) は、下位次元の一つである他者指向の共感が、社会的スキルや感情の温かさといった適応的な変数と、もう一方の下位次元である自己指向の共感が、敵意や身体的攻撃といった不適応的な変数と、それぞれ有意な正の相関を示すことを報告している。これを受け, 片岡他 (2017) は, SOP が共感性に及ぼす影響について、それぞれを適応の側面と不適応の側面に分けて両者の関連を検討し、「完全性と理想の追求」が他者・自己指向の共感のどちらも促進するのに対して、「不完全性と失敗への恐れ」が自己指向の共感を促進し、他者指向の共感を抑制することを報告した。

片岡他 (2017) の検討では、線形的なモデルに留まっていたが, SOP と共感性の適応の側面と不適応の側面の関連には、線形モデルでは捉えきれないサブクラスタが存在する可能性もある。そこで本研究では、クラスタ分析を用いて、複数のサブクラスタを抽出し、それぞれの特徴を検討した。

方 法

分析対象者 大学生を対象とした大規模データベース (CAASK²; 福井他, 2017) から後述する変数が揃った 586 名 (男性 324 名, 女性 262 名) を分析対象とした。平均年齢は 18.85 歳 ($SD = 1.24$) であった。

尺度構成 SOP を測定するため, 辻 (1992) と桜井・大谷 (1997) の完全主義尺度をもとに, 福井 (2012) によって再編された尺度を用いて「完全性と理想の追求」、「不完全性と失敗への恐れ」の 2 つの下位尺度得点を得た。共感性を測定するため, 多次元共感性尺度 (鈴木・木野, 2008) を用いて被影響性, 視点取得, 共感的配慮, 想像性, 個人的苦痛の 5 つの下位尺度得点を得た。視点取得と共感的配慮は他者指向の共感, 想像性と個人的苦痛は自己指向の共感であった。

結 果

SOP と共感性の各下位尺度得点を用いてクラスタ分析 (Ward 法・平方ユークリッド距離) を行い, 分析対象者を 6 つの CL に分類した結果を Figure 1 に示した。CL1 は、「完全性と理想の追求」のみが高いのに対し, CL2 は, SOP が平均的であった。CL1 と 2 はともに視点取得, 共感的配慮, 想像性が高かった。CL3 と 4 は、「不完全性と失敗への恐れ」が高く、「完全性と理想の追求」は平均的であった。被影響性の値の符号が CL3 と 4 では正反対であった他は, 両群ともに視点取得が低く, 想像性と個人的苦痛は高かった。なお, CL5 は全ての尺度得点が低かったのに対して, CL6 は SOP が平均的で, 視点取得や共感的配慮, 想像性が低かった。

Figure 1 各CLのプロフィール

考 察

「不完全性と失敗への恐れ」が平均的な群 (CL1, 2) と高い群 (CL3, 4) を比較すると, 両群ともに想像性という自己指向的な認知的共感性が高い一方で, 前者は後者よりも他者指向の共感性が高かった。SOP の不適応の側面は, 自己没入 (高橋, 2005) や自意識 (齋藤他, 2009) といった, 自己への焦点化を表す変数と有意な正の相関を示すことが報告されていることから, CL1 と 2 では自己への焦点化が適度であるのに対し, CL3 と 4 では過剰である可能性が考えられる。そのため, 前者は自己視点を援用することで他者に合わせた柔軟な認知をすることができる適応的な群である一方で, 後者は自己視点に固執しやすいため, 他者の立場に立つことが困難な不適応的な群であるのかもしれない。CL5 は全体的に低い値を示した。SOP には, 他者を意識する側面もある (東, 2007) ことから, SOP が低かった CL5 は, 他者の情動に関心が向きにくいと、共感性が低いのかも。CL6 は CL2 と同様に SOP は平均的であったが, CL2 に比べ全体的に低い共感性を示した。CL6 は CL2 よりも共感性の気質の側面である被影響性が低かった。そのため, 他者の情動への反応が弱いのかも。ただし, 本研究は, SOP と共感性の関連の検討に留まっているため, 社会的適応との関連について結論づけることはできない。今後は人間関係の問題や適応に関する変数, 精神的健康の指標となる変数を含めた検討が必要であろう。